

平成29年11月13日

株 主 各 位

東京都豊島区東池袋一丁目9番6号

株式会社ヒト・コミュニケーションズ

代表取締役社長 安 井 豊 明

## 第21回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、当社第21回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成29年11月28日（火曜日）午後6時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成29年11月29日（水曜日）午前10時
2. 場 所 東京都新宿区戸塚町一丁目104番19号  
リーガロイヤルホテル東京（3階「ロイヤルホール」）  
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第21期（平成28年9月1日から平成29年8月31日まで）事業報告及び連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第21期（平成28年9月1日から平成29年8月31日まで）計算書類報告の件

### 決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役6名選任の件
- 第4号議案 補欠監査役1名選任の件
- 第5号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

(当社ウェブサイト：<http://hitocom-ir.com/>)

第21回定時株主総会におきましては、おみやげの配布は予定しておりません。  
何卒ご理解の程宜しく願い申し上げます。

(提供書面)

## 事業報告

(平成28年9月1日から  
平成29年8月31日まで)

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 当連結会計年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジア新興国等の景気の先行きの不確実性による下振れ懸念はあるものの、政府の経済対策や金融政策等により、雇用・所得環境及び企業収益も改善していることから、景気は緩やかな回復基調が継続いたしました。

当社グループが属する営業支援系アウトソーシング業界においては、雇用関連の各種指標の持続的な改善により、小売・サービス分野における人手不足は深刻化している一方で、企業の人材採用意欲は依然旺盛であることから、当社グループが提供する各種人材サービスに対するニーズは引き続き堅調に推移いたしました。

このようなマーケット状況のもと、当社グループは「事業創造企業への脱皮～更なる付加価値企業を目指して～」を合言葉に、アウトソーシングサービスを牽引するリーディングカンパニーとして、クライアントのニーズに成果で応える「成果追求型営業支援」の実践を継続いたしました。

その実践として、既存の家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野、ストアサービス分野の業務運営事務局の新規提案、収益改善に取り組むとともに、当社の全国拠点網を活用したセールスプロモーション提案の強化を継続いたしました。増加する訪日外国人旅行者への対応力強化につきましては、インバウンドビジネスの専門部署を中心に前連結会計年度に引き続き外国人スタッフの登録者数・就業者数の増加に向けた営業強化及び空港関連事業、多言語コールセンター、商業施設等における免税カウンターの一括運営受託の提案営業を重点的に実施いたしました。

また、平成29年6月にECサイト販売支援に強みを持つ株式会社ビービーエフを子会社化し、リアルマーケットに強みを持つ当社とバーチャルマーケットに強みを持つ株式会社ビービーエフのノウハウを融合することで、将来進展が予想される販売現場におけるIT化への対応力強化を図り、「オムニチャネル営業支援」体制を構築いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は34,779,968千円（前年同期比20.7%増）となりました。また、営業費用において、過年度におけるスタッフ等の未払給与と上及び株式取得関連費用を支出した結果、営業利益は2,601,205千円（前年同期比7.2%減）、経常利益は2,537,742千円（前年同期比9.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,475,663千円（前年同期比5.6%減）となりました。

事業別の状況は次のとおりであります。

なお、当社は平成29年6月30日付で株式会社ビービーエフを子会社化したことに伴い、平成29年7月より株式会社ビービーエフ、株式会社ブランチ・アウト及び上海布藍綺国際貿易有限公司を新たに連結の対象といたしました。これに伴い、当連結会計年度においてECサイト運営受託、テレビショッピング販売支援及び衣料品の卸売に関する売上が計上され、経営に与える影響の大きさや新たにグループの収益の重要な基盤となると考えられることから、両社の実績につき第4四半期連結会計期間より、新たな事業セグメントとして「EC・TC支援事業」、「ホールセール事業」の2つに分類しております。

アウトソーシング事業におきましては、家電分野、ブロードバンド分野及びモバイル分野を中心とした業務運営事務局の受注に向けた提案及び収益改善を継続するとともに、キャンペーン受注の獲得及びストアサービス分野・コールセンター他分野における営業アウトソーシングの受注強化に取り組みました。

上記取り組みにより、モバイル分野において、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店における高速無線通信への加入促進を業務内容とする業務運営事務局の売上高が大幅に増加したほか、家電分野において外資系企業からの受注が増加いたしました。また、インバウンドビジネスの専門部署を中心に、増加する訪日外国人旅行者の取り込みを強化する小売業を中心とする流通各社に対する提案営業活動を強化した結果、首都圏エリアにおいて新規開店商業施設の免税カウンター運営の案件を受注したほか、空港関連事業の受注が好調に推移いたしました。しかしながら、高粗利の既存のブロードバンドサービス販売の案件の受注規模の縮小がありました。

その結果、当連結会計年度の売上高は20,810,583千円（前年同期比2.7%増）、営業利益は2,229,637千円（前年同期比12.1%減）となりました。

人材派遣事業におきましては、家電分野、ストアサービス分野、コールセンター他分野を中心に、幅広い取引先からの案件の新規受注獲得及び訪日外国人旅行者向けの人材サービスの営業強化に取り組みました。家電分野におきましては、引き続き外資系メーカーを中心に新規案件の受注が増加した他、国内主要メーカーからの常勤稼働の人材派遣案件についても受注が好調に推移いたしました。ストアサービス分野におきましては、大手GMS・食品スーパーにおける人材採用難等に伴う需要拡大に伴い、引き続きレジ業務他幅広い職種での受注が堅調に推移いたしました。また、コールセンター他分野におきましては、訪日外国人旅行者向けの人材サービスの受注が好調に推移いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は8,895,219千円（前年同期比6.1%増）、営業利益は365,856千円（前年同期比25.9%増）となりました。

EC・TC支援事業におきましては、ファッション・スポーツ領域を中心にECサイト運営受託の新規営業活動に注力いたしました。当連結会計年度におきましては、平成29年6月に子会社化した株式会社ビービーエフの売上が寄与いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は3,989,378千円（前年同期実績は有りません）、営業利益は108,331千円（前年同期実績は有りません）となりました。

ホールセール事業におきましては、国内大手小売店向けに衣料品の商品企画並びに卸売の営業活動に注力いたしました。当連結会計年度におきましては、平成29年6月に子会社化した株式会社ランチ・アウトの売上が寄与いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は909,310千円（前年同期実績は有りません）、営業損失は44,372千円（前年同期実績は有りません）となりました。

その他におきましては、東日本エリアにおいて販売教育研修の案件を受注したほか、紹介手数料による売上が増加いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は175,476千円（前年同期比0.4%増）、営業損失は39,598千円（前年同期は4,745千円の営業損失）となりました。

（事業別売上高）

| 事業区分       | 第20期<br>(平成28年8月期)<br>(前連結会計年度) |       | 第21期<br>(平成29年8月期)<br>(当連結会計年度) |       | 前年同期比     |        |
|------------|---------------------------------|-------|---------------------------------|-------|-----------|--------|
|            | 金額                              | 構成比   | 金額                              | 構成比   | 金額        | 構成比    |
| アウトソーシング事業 | 20,269,144千円                    | 70.3% | 20,810,583千円                    | 59.8% | 541,438千円 | △10.5% |
| 人材派遣事業     | 8,381,588                       | 29.1  | 8,895,219                       | 25.6  | 513,630   | △3.5   |
| EC・TC支援事業  | —                               | —     | 3,989,378                       | 11.5  | 3,989,378 | 11.5   |
| ホールセール事業   | —                               | —     | 909,310                         | 2.6   | 909,310   | 2.6    |
| 計          | 28,650,733                      | 99.4  | 34,604,491                      | 99.5  | 5,953,758 | 0.1    |
| その他        | 174,846                         | 0.6   | 175,476                         | 0.5   | 630       | △0.1   |
| 合計         | 28,825,580                      | 100.0 | 34,779,968                      | 100.0 | 5,954,388 | —      |

② 設備投資の状況

当連結会計年度中において実施いたしました企業集団の設備投資の総額は50,639千円で、その主なものは次のとおりであります。

イ. 当連結会計年度中に完成した主要設備

| 資産の種類     | 内容及び金額          |          |
|-----------|-----------------|----------|
| 建 物       | 支店開設による新設       | 6,900千円  |
| 工具、器具及び備品 | 支店開設による新設       | 2,421千円  |
| ソフトウェア    | 業務管理基幹システムの機能開発 | 24,877千円 |

ロ. 当連結会計年度において継続中の主要設備の新設、拡充

該当事項はありません。

ハ. 当連結会計年度中に実施した重要な固定資産の売却、撤去、減失

該当事項はありません。

③ 資金調達の状況

所要資金につきましては、自己資金並びに短期借入金及び長期借入金で賄っております。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

当社は、平成29年6月30日に、株式会社ビービーエフの発行済株式総数の60%を取得し、子会社化いたしました。

## (2) 対処すべき課題

平成29年6月をもって株式会社ビービーエフ、株式会社ブランチ・アウト、上海布藍綺国際貿易有限公司の3社を子会社化したことに伴い、当社の事業ポートフォリオは大きく変化しております。そこで、今後当社グループといたしましては更なる事業の再構築等を推進していく必要性があり、特に下記の3点を重点課題として取り組んでまいります。

### ① グループ経営の高度化

当社グループは、平成29年6月に株式会社ビービーエフを子会社化したことにより、事業構造が大きく変化するとともに事業規模も飛躍的に拡大しております。

また連結子会社も平成29年8月末時点で6社となり、今後更にグループ内の事業シナジーを最大化すべくグループ経営の高度化が急務であると考えております。

そのため当社グループではグループガバナンスの強化による意思決定の迅速化及び経営の効率化を推進するとともに、更なる事業拡大に向けて、次世代経営者人材の登用並びに育成による人材面での競争優位の確立に重点的に取り組んでまいります。

### ② 事業領域の拡大

当社グループはこれまで、人材サービス提供による営業支援が事業の大半を占めておりましたが、主たるマーケットである販売・サービス分野においては、人口減経済の進展、個人消費の伸び悩み、働き方改革と生産性向上、AI（人口知能）・ビッグデータの活用、実店舗（リアル）とEコマース等（バーチャル）の融合等、足元の事業環境が大きく変化しております。

当社グループにおいては、株式会社ビービーエフの子会社化によりバーチャル分野における営業支援事業に参入し、オムニチャネル営業支援体制を構築いたしました。今後においても、「社会の要請や変化を敏感に捉え、社会のニーズに的確に応える」をテーマにオムニチャネル営業支援の高度化を進めるとともに、多言語コールセンター、免税カウンターの運営受託等の訪日外国人旅行者向けのサービス拡充、外国人人材サービスの事業拡大等を推進し、更なる事業領域の拡大に取り組んでまいります。

### ③ 優秀な人材確保と育成の推進

優秀な人材の確保と育成は当社グループの事業推進を支える重要な要素であります。有効求人倍率、失業率等の雇用関連の各種指標の持続的な改善により、販売・サービス分野における人手不足は深刻化・長期化しており、逼迫した雇用情勢が継続するものと見込まれております。

しかしながらその一方で、生産性の向上やテクノロジーの進展等の環境変化に対応しうる即戦力となる人材や専門性の高い人材に対するニーズはますます高まっております。

このニーズに応えるため、引き続き現場力の強化に貢献するスタッフの確保に注力するとともに、Eコマース業務支援事業等の新規事業領域においても、優秀な人材を新入社員・中途社員を問わず採用し、社内外の研修等の活用、グループ内での人事交流等を積極的に実施し人材育成を推進してまいります。

## (3) 財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                           | 第 18 期<br>(平成26年 8 月期) | 第 19 期<br>(平成27年 8 月期) | 第 20 期<br>(平成28年 8 月期) | 第 21 期<br>(当連結会計年度)<br>(平成29年 8 月期) |
|-------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 売 上 高(千 円)                    | 22,239,651             | 26,312,436             | 28,825,580             | 34,779,968                          |
| 経 常 利 益(千 円)                  | 1,913,260              | 2,364,694              | 2,811,156              | 2,537,742                           |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 (千 円) | 1,044,404              | 1,295,129              | 1,562,890              | 1,475,663                           |
| 1 株 当 た り<br>当 期 純 利 益 (円)    | 58.35                  | 72.36                  | 87.32                  | 82.44                               |
| 総 資 産 (千 円)                   | 8,585,462              | 10,364,094             | 11,539,769             | 18,694,320                          |
| 純 資 産 (千 円)                   | 5,694,536              | 6,727,957              | 8,088,577              | 10,301,680                          |
| 1 株 当 た り<br>純 資 産 額 (円)      | 318.14                 | 374.84                 | 450.65                 | 519.81                              |

(注) 当社は第20期(平成28年8月期)に普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。第18期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を算定しております。

## ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分                       | 第 18 期<br>(平成26年 8 月期) | 第 19 期<br>(平成27年 8 月期) | 第 20 期<br>(平成28年 8 月期) | 第 21 期<br>(当事業年度)<br>(平成29年 8 月期) |
|---------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------------------|
| 売 上 高(千 円)                | 21,960,126             | 23,623,299             | 26,048,041             | 27,174,307                        |
| 経 常 利 益(千 円)              | 1,882,513              | 2,308,697              | 2,777,052              | 2,507,931                         |
| 当 期 純 利 益(千 円)            | 1,029,042              | 1,282,238              | 1,557,231              | 1,604,689                         |
| 1 株 当 たり<br>当 期 純 利 益 (円) | 57.49                  | 71.64                  | 87.00                  | 89.65                             |
| 総 資 産 (千 円)               | 8,523,732              | 10,076,018             | 11,258,972             | 14,066,784                        |
| 純 資 産 (千 円)               | 5,668,403              | 6,745,596              | 8,097,034              | 9,462,786                         |
| 1 株 当 たり<br>純 資 産 額 (円)   | 316.68                 | 376.86                 | 452.36                 | 528.66                            |

(注) 当社は第20期(平成28年8月期)に普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。第18期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を算定しております。

## (4) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況

| 会社名              | 資本金       | 当社の出資比率 | 主要な事業内容              |
|------------------|-----------|---------|----------------------|
| 株式会社ティーシーエイ      | 100,000千円 | 100.0%  | アウトソーシング事業<br>人材派遣事業 |
| 株式会社WS S スタッフィング | 40,000千円  | 100.0%  | アウトソーシング事業<br>人材派遣事業 |
| 株式会社ジャッツ         | 40,000千円  | 65.0%   | アウトソーシング事業<br>人材派遣事業 |
| 株式会社ビービーエフ       | 255,000千円 | 60.0%   | E C ・ T C 支援事業       |
| 株式会社ブランチ・アウト     | 10,000千円  | 60.0%   | ホールセール事業             |

(5) 主要な事業内容 (平成29年8月31日現在)

| 事業区分       | 事業内容                                                                                                                                                           |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アウトソーシング事業 | ・デジタル家電、高性能携帯電話（スマートフォン等）、生鮮食品やコスメティック・ファッションの販売<br>・固定通信回線（光回線等）への加入促進業務<br>・バスガイド業務、展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務<br>・各種受付コールセンター業務、訪日外国人向け多言語コールセンター、免税カウンター受託業務 |
| 人材派遣事業     | ・デジタル家電、高性能携帯電話（スマートフォン等）、生鮮食品やコスメティック・ファッションの販売<br>・国内旅行・海外旅行添乗業務、バスガイド業務<br>・コールセンター業務                                                                       |
| EC・TC支援事業  | ・ECサイト運営受託<br>・テレビショッピングの販売支援                                                                                                                                  |
| ホールセール事業   | ・自社企画衣料品の製造・卸売                                                                                                                                                 |

(6) 主要な営業所 (平成29年8月31日現在)

①当社

|     |                                                                                                                                      |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本社  | 東京都豊島区                                                                                                                               |
| 支社  | 関西支社（大阪府大阪市）、東海支社（愛知県名古屋市）、九州支社（福岡県福岡市）、北海道支社（北海道札幌市）、東北支社（宮城県仙台市）                                                                   |
| 支店  | 横浜支店（神奈川県横浜市）、千葉支店（千葉県船橋市）、京都支店（京都府京都市）、水戸支店（茨城県水戸市）、新潟支店（新潟県新潟市）、岡山支店（岡山県岡山市）、広島支店（広島県広島市）、静岡支店（静岡県静岡市）、長野支店（長野県長野市）、大宮支店（埼玉県さいたま市） |
| 営業所 | 浜松営業所（静岡県浜松市）、鹿児島営業所（鹿児島県鹿児島市）、宇都宮営業所（栃木県宇都宮市）、金沢営業所（石川県金沢市）、沖縄営業所（沖縄県那覇市）                                                           |

②株式会社ビービーエフ

|    |         |
|----|---------|
| 本社 | 東京都千代田区 |
|----|---------|

③株式会社ブランチ・アウト

|    |        |
|----|--------|
| 本社 | 東京都渋谷区 |
|----|--------|

(7) 従業員の状況（平成29年8月31日現在）

① 企業集団の従業員数

| 従業員数 | 前連結会計年度末比増減 |
|------|-------------|
| 468名 | 141名増       |

(注) 「従業員数」には、正社員の他に契約社員を含めて表示しております。

② 当社の従業員数

| 従業員数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 256名 | 7名増       | 35.3歳 | 4.7年   |

(注) 「従業員数」には、正社員の他に契約社員を含めて表示しております。

(8) 主要な借入先（平成29年8月31日現在）

| 借入先           | 借入額(千円) |
|---------------|---------|
| 株式会社三井住友銀行    | 983,334 |
| 株式会社みずほ銀行     | 983,332 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 483,334 |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項 (平成29年8月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 56,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 17,900,000株(自己株式584株を含む)  
 (3) 株主数 3,171名  
 (4) 大株主(上位10名)

| 株 主 名                                                                                                 | 持 株 数       | 持 株 比 率 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------|
| 野村信託銀行株式会社<br>(信託口 2052116)                                                                           | 5,535,600 株 | 30.93%  |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社<br>(信託口)                                                                         | 2,344,000   | 13.10   |
| みずほ信託銀行株式会社<br>有価証券管理信託 0700026                                                                       | 2,148,000   | 12.00   |
| 株式会社ダッチパートナーズ                                                                                         | 2,120,000   | 11.84   |
| 管理信託(A001)受託者<br>株式会社SMB C信託銀行                                                                        | 1,428,400   | 7.98    |
| 日本マスタートラスト信託銀行<br>株式会社(信託口)                                                                           | 612,800     | 3.42    |
| GOVERNMENT OF NORWAY<br>(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店 証券業務部)                                                | 547,449     | 3.06    |
| RBC ISB A/C LUX NON RESIDENT/DOMESTIC<br>RATE-UCITS CLIENTS ACCOUNT<br>(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店 証券業務部) | 260,000     | 1.45    |
| 安 井 豊 明                                                                                               | 204,100     | 1.14    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社<br>(信託口 9)                                                                       | 128,600     | 0.72    |

(注) 持株比率は自己株式(584株)を控除して計算しております。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

(1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況  
(平成29年8月31日現在)

該当事項はありません。

(2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況

該当事項はありません。

### 4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等 (平成29年8月31日現在)

| 会社における地位 | 氏名   | 担当及び重要な兼職の状況                                                              |
|----------|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長  | 安井豊明 | 株式会社ジャッツ 取締役<br>株式会社ビービーエフ 代表取締役会長                                        |
| 取締役      | 安川徳昭 | 経理財務本部長 兼 業務部長<br>株式会社ティーシーエイ 取締役<br>株式会社WSSスタッフィング 取締役<br>株式会社ビービーエフ 取締役 |
| 取締役      | 積真義  | 本社営業本部長 兼 東日本営業本部長                                                        |
| 取締役      | 吉綱利明 | 西日本営業本部長 兼 関西支社長 兼京都支店長<br>株式会社WSSスタッフィング 取締役                             |
| 取締役      | 古賀哲夫 | 株式会社ジャッツ 取締役                                                              |
| 取締役      | 中野雅之 |                                                                           |
| 常勤監査役    | 立石和義 | 株式会社ティーシーエイ 監査役<br>株式会社ジャッツ 監査役                                           |
| 監査役      | 松田孝子 | 松田孝子法律事務所 弁護士                                                             |
| 監査役      | 中島公男 |                                                                           |

- (注) 1. 平成28年11月29日開催の第20回定時株主総会で、中野雅之氏が取締役新たに選任され、就任いたしました。
2. 平成28年11月29日開催の第20回定時株主総会終結の時をもって、川上勝二氏は取締役を任期満了により退任いたしました。
3. 取締役古賀哲夫氏、中野雅之氏は、社外取締役であります。
4. 監査役立石和義氏、松田孝子氏並びに中島公男氏は、社外監査役であります。
5. 常勤監査役立石和義氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
6. 当社は監査役立石和義氏並びに松田孝子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## (2) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

## (3) 取締役及び監査役の報酬等の額

### ① 当事業年度に係る報酬等の額

| 区 分                | 員 数       | 報 酬 等 の 額              |
|--------------------|-----------|------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 7名<br>(2) | 110,728 千円<br>(13,778) |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 3<br>(3)  | 11,000<br>(11,000)     |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 10<br>(5) | 121,728<br>(24,779)    |

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
2. 取締役の報酬限度額は、平成23年3月14日開催の臨時株主総会において、年額500百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。  
3. 監査役の報酬限度額は、平成21年11月26日開催の第13回定時株主総会において、年額13百万円以内と決議いただいております。  
4. 上記の報酬等の額には、以下のものが含まれております。  
当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額8,608千円（取締役5名に対し8,608千円）

### ② 当事業年度に支払った役員退職慰労金

取締役一人に対し2,960千円

### ③ 社外役員が子会社等から受けた役員報酬等の総額

該当事項はありません。

#### (4) 社外役員に関する事項

##### ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該法人等との関係

| 区分  | 氏名    | 兼職先         | 兼務内容 | 当該他の法人等との関係                            |
|-----|-------|-------------|------|----------------------------------------|
| 取締役 | 古賀 哲夫 | 株式会社ジャッツ    | 取締役  | 株式会社ジャッツは、当社が議決権の65%を保有する子会社であります。     |
| 監査役 | 立石 和義 | 株式会社ティーシーエイ | 監査役  | 株式会社ティーシーエイは、当社が議決権の100%を保有する子会社であります。 |
|     |       | 株式会社ジャッツ    | 監査役  | 株式会社ジャッツは、当社が議決権の65%を保有する子会社であります。     |
| 監査役 | 松田 孝子 | 松田孝子法律事務所   | 弁護士  | 当社と松田孝子法律事務所との間に、重要な取引その他関係はありません。     |

##### ② 当事業年度における主な活動状況

|           | 出席状況及び発言状況                                                                                                        |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 古賀 哲夫 | 当事業年度に開催された取締役会13回のうち13回に出席いたしました。経営者としての豊富な経験を通じて培われた幅広い見識を生かし、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を確保するための助言・提言を行っております。           |
| 取締役 中野 雅之 | 取締役就任後に開催された取締役会10回のうち10回に出席いたしました。労働省（現厚生労働省）において労働行政に長期にわたり関わってきた経験を生かし、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を確保するための助言・提言を行っております。 |
| 監査役 立石 和義 | 当事業年度に開催された取締役会13回のうち13回、監査役会13回のうち13回に出席いたしました。主に税理士としての専門の見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を確保するための助言・提言を行っております。  |
| 監査役 松田 孝子 | 当事業年度に開催された取締役会13回のうち13回、監査役会13回のうち13回に出席いたしました。弁護士としての専門の見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を確保するための発言を行っております。               |
| 監査役 中島 公男 | 当事業年度に開催された取締役会13回のうち13回、監査役会13回のうち13回に出席いたしました。労働省（現厚生労働省）出身であることから、当社事業の労働法及び派遣法関連法令に対する適法性を確保するための発言を行っております。  |

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 名称

新日本有限責任監査法人

### (2) 報酬等の額

|                                        | 報酬等の額     |
|----------------------------------------|-----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                    |           |
| イ. 公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額             | 38,242 千円 |
| ロ. 公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務に係る報酬等の額        | — 千円      |
| 当社及び当社の子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 38,242 千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の報酬等に監査役会が同意した理由

監査役会は、監査項目別監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画の実績の状況を把握し、当事業年度の監査時間及び報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

### (5) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の議案の内容とすることを決定いたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### (6) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

## (7) 会計監査人が受けた過去2年間の業務の停止の処分に係る事項

当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人は、平成27年12月22日、金融庁から、契約の新規の締結に関する業務の停止3ヶ月（平成28年1月1日から平成28年3月31日）の処分を受けました。当社は、同監査法人の再発防止に向けた改善への業務の取り組み及び当社に対する監査業務は適切かつ厳格に遂行されていることを評価し、今後も同監査法人による継続的な監査を行うことが最善との判断に至っております。

## 6. 会社の体制及び方針

### (1) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

- ① 当社及び子会社の取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - (a) 当社は、取締役及び使用人が、法令、定款及び社会倫理規範に適合することを確保するため、当社グループのコンプライアンス管理体制を整備しコンプライアンス教育・研修等を実施して周知徹底を図る。また、その実践のため企業理念及び諸規程・マニュアル等を制定する。
  - (b) 当社は、他の業務執行部門から独立した代表取締役社長直轄の内部監査室による内部監査を実施する。内部監査を通じて各部門の内部管理体制の適切性・有効性を検証・評価し、その改善を促すことにより、当社グループの使用人の職務執行の適法性を確保する。
  - (c) 社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を遮断するとともに、これら反社会的勢力に対しては、警察等の外部専門機関と緊密に連携し、全社を挙げて毅然とした態度で対応する。
- ② 取締役の職務の遂行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
文書管理規程その他関連規程に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁記録的な媒体に記録し、保存する。取締役及び監査役は、常時、これらの文書等を閲覧できるものとする。
- ③ 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - (a) 当社及び子会社の業務執行に係るリスクに関して、各関係部門・子会社においてそれぞれ予見されるリスクの分析と識別を行い、全社のリスクを網羅的・総括的に管理する。

- (b) 当社及び子会社の経営に重大な影響を与えるような経営危機が発生した場合は、代表取締役社長を本部長とする対策本部を設置し、当社及び子会社の損失を最小限に抑えるとともに早期の現状回復に努める。
- ④ 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (a) 当社は取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を毎月開催するとともに、必要に応じて臨時取締役会を開催する。取締役会の手続き及び取締役会の権限範囲等は取締役会規程で明確にする。
- (b) 子会社は会社の規模に応じて取締役会を毎月若しくは少なくとも四半期に1回以上開催し、当社の社長室が開催状況を定期的に確認する。また、子会社は必要に応じて臨時取締役会を開催する。
- (c) 取締役による効果的な業務運営を確保するため、組織規程及び職務分掌規程を定めるとともに、取締役の職務執行に関する基本的職務・責任権限に関する事項を明確にすることで組織の効率的な運営を図ることを目的として、職務権限規程を定める。
- (d) その他社内規程を整備することにより、取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保する。
- (e) 当社は、経営計画を適正に策定・運用するため、予算管理規程を定める。同規程に則り、取締役会において中期経営計画並びに単年度予算を策定するとともに、原則として事業年度毎に1回、中期経営計画のローリング（終期の更新と内容の見直し）を行う。
- (f) 取締役は、取締役会で定めた中期経営計画及び単年度予算に基づき効率的な職務執行を行い、予算の進捗状況について取締役会に報告する。
- ⑤ 当該会社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- (a) 当社は、関係会社管理規程を定め、当社の子会社における経営上の重要事項の決定を事前承認事項とすること等により、グループ全体の経営管理を行う。
- (b) 当社は、内部統制の構築を目的として内部統制委員会を設置し、当社及び当社の子会社における内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われる体制を構築する。
- (c) 子会社の取締役または監査役を当社から子会社に派遣し、取締役会への出席及び監査役による監査を通じて経営の状況を把握し、監督する。

- (d) 当社の内部監査室は、グループ全体の法令・定款及び社内規程の遵守体制の有効性について監査を行う。また、是正・改善の必要がある場合、すみやかにその対策を講じるように適切な指摘や指導を行う。
- ⑥ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性並びに指示に対する実効性の確保に関する事項
- (a) 当社は、監査役の要求を受けた場合に補助使用人を置き、監査役の職務の補助を行う。
- (b) 監査役より監査業務に必要な業務指示・命令を受けた使用人は、その業務指示等に関して、取締役の指揮命令を受けないこととする。
- ⑦ 当社及び子会社の取締役、使用人が監査役に報告をするための体制及び監査役へ報告した者が当該報告をしたことを理由として不利益を受けないことを確保するための体制
- (a) 監査役を取締役会及びその他重要な会議に招集し、会社経営及び事業運営上の重要事項並びに業務執行状況を報告することとする。
- (b) 内部監査部門が実施した監査結果を監査役に供覧することとする。
- (c) 使用人は前項に関する重大な事実を発見した場合は、監査役に直接報告することができるものとする。
- (d) 当社は、内部通報規程等の社内規程において、使用人が監査役への報告または内部通報窓口への通報により、人事評価において不利な取り扱いを受けることが無く、また不利益処分の対象となることがないよう明示的に定める。
- ⑧ 監査役の職務の執行について生ずる費用の処理の方針  
監査役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは支出した費用の償還、負担した債務の弁済等の処理は、監査役からの申請に基づき適切に行う。
- ⑨ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (a) 監査役は、監査役監査に関する基準及び基本事項を規定し、監査役監査の円滑かつ効果的な実施を図ることを目的として、監査役会規程を定める。監査役は同規程に定めるところにより、業務監査及び会計監査を行う。
- (b) 監査役は、必要に応じて取締役及び使用人に対する個別のヒアリング等を実施することができるとともに、代表取締役社長、内部監査室、会計監査人と定期的な会合を持ち、意見を交換する。

(c) 監査役が監査の実施にあたり必要と認めるときは、弁護士その他の外部アドバイザーを任用しその費用を当社に請求することができる。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当事業年度（平成28年9月1日から平成29年8月31日）における上記体制の運用状況の概要は次のとおりであります。

### ① 内部統制システム全般

当社及び子会社の内部統制システム全般の整備・運用状況を当社の内部監査室及び内部統制委員会（当事業年度は2回開催）がモニタリングし、改善を進めております。また、内部監査室及び内部統制委員会は金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の有効性の評価」を行っております。

### ② コンプライアンス

法令遵守体制の点検・強化を当社のコンプライアンス室が中心となって行っており、当社の取締役会及び社内的重要会議において、コンプライアンスに関する課題及びその対応策を共有しております。また、従業員に対し定期的なコンプライアンス研修を実施しております。

### ③ 子会社経営管理

子会社の経営管理につきましては、当社の社長室にて子会社の経営管理体制を整備、統括するとともに、関係会社管理規程に基づき、子会社からの業務に関する重要事項の報告を受け、その承認を行っております。また、当社の内部監査室が子会社に対する監査を実施し、グループ経営に対応した効果的なモニタリングを実施しております。

### ④ 取締役の職務執行

社外取締役を複数名選任し、かつ取締役会を通じて社外取締役からの発言が積極的に行われる機会を設けることで、監督機能を強化しております。なお、当事業年度においては、取締役会は13回開催されております。

⑤ 監査役

社外監査役を含む監査役は、取締役会の出席及び社内の重要会議への出席を通じて、内部監査室、内部統制委員会が担当する内部統制の整備、運用状況を確認しております。また、会計監査人、内部監査室等、内部統制に係る組織と相互に連携・情報交換をすることにより、当社の内部統制システム全般をモニタリングするとともに、より効率的な運用について助言を行っております。

(3) 株式会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

(4) 親会社等との取引に関する事項

該当事項はありません。

(5) 特定完全子会社に関する事項

該当事項はありません。

(6) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、企業価値を継続的に拡大し、株主様への利益還元を行うことを重要な経営課題と認識しております。

配当金・内部留保に関する基本方針といたしましては、毎期の業績、財政状況を勘案しつつ、将来の事業拡大のために必要な内部留保とのバランスを図りながら配当による株主様への利益還元を安定的かつ継続的に実施する方針であります。

この方針に基づき、当期の期末配当金につきましては1株あたり6.50円とし、中間配当金の1株あたり6.50円と合わせ、当期の年間配当金は1株あたり13.00円となります。

# 連 結 貸 借 対 照 表

(平成29年8月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目                | 金 額               | 科 目                      | 金 額               |
|--------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|
| <b>(資 産 の 部)</b>   |                   | <b>(負 債 の 部)</b>         |                   |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>12,463,523</b> | <b>流 動 負 債</b>           | <b>6,002,910</b>  |
| 現金及び預金             | 5,521,609         | 買 掛 金                    | 2,529,510         |
| 受取手形及び売掛金          | 6,022,876         | 1年内返済予定の長期借入金            | 300,000           |
| 商 品                | 646,456           | 未 払 金                    | 1,919,878         |
| 仕 掛 品              | 11,177            | 未 払 費 用                  | 43,091            |
| 前 払 費 用            | 98,618            | リ ー ス 債 務                | 572               |
| 繰延税金資産             | 155,407           | 未 払 法 人 税 等              | 598,721           |
| そ の 他              | 38,818            | 未 払 消 費 税 等              | 325,785           |
| 貸倒引当金              | △31,441           | 預 り 金                    | 103,120           |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>6,230,796</b>  | 賞 与 引 当 金                | 162,312           |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>1,977,488</b>  | 役 員 賞 与 引 当 金            | 630               |
| 建 物                | 601,199           | そ の 他                    | 19,286            |
| 機械装置及び運搬具          | 3,861             | <b>固 定 負 債</b>           | <b>2,389,729</b>  |
| 工具、器具及び備品          | 98,678            | 長 期 借 入 金                | 2,150,000         |
| 土 地                | 1,273,276         | 役 員 退 職 慰 労 引 当 金        | 88,445            |
| リ ー ス 資 産          | 472               | 退 職 給 付 に 係 る 負 債        | 78,075            |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>3,224,049</b>  | 資 産 除 去 債 務              | 43,152            |
| の れ ん              | 3,129,459         | そ の 他                    | 30,056            |
| ソフトウエア             | 88,791            | <b>負 債 合 計</b>           | <b>8,392,639</b>  |
| そ の 他              | 5,799             | <b>(純 資 産 の 部)</b>       |                   |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>1,029,258</b>  | <b>株 主 資 本</b>           | <b>9,300,097</b>  |
| 投資有価証券             | 526,946           | 資 本 金                    | 737,815           |
| 関係会社出資金            | 5,357             | 資 本 剰 余 金                | 609,788           |
| 関係会社長期貸付金          | 142,000           | 利 益 剰 余 金                | 7,952,657         |
| 破産更生債権等            | 83,468            | 自 己 株 式                  | △164              |
| 敷金及び保証金            | 293,438           | その他の包括利益累計額              | 4,179             |
| 繰延税金資産             | 159,531           | そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金  | 3,736             |
| そ の 他              | 26,764            | 為 替 換 算 調 整 勘 定          | 442               |
| 貸倒引当金              | △208,249          | 非 支 配 株 主 持 分            | 997,404           |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>18,694,320</b> | <b>純 資 産 合 計</b>         | <b>10,301,680</b> |
|                    |                   | <b>負 債 及 び 純 資 産 合 計</b> | <b>18,694,320</b> |

※単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

# 連 結 損 益 計 算 書

(平成28年9月1日から  
平成29年8月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                          | 金         | 額          |
|------------------------------|-----------|------------|
| 売 上 高                        |           | 34,779,968 |
| 売 上 原 価                      |           | 27,251,970 |
| 売 上 総 利 益                    |           | 7,527,997  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費          |           | 4,926,792  |
| 営 業 利 益                      |           | 2,601,205  |
| 営 業 外 収 益                    |           |            |
| 受 取 利 息                      | 1,179     |            |
| 有 価 証 券 利 息                  | 2,542     |            |
| 受 取 配 当 金                    | 2,143     |            |
| 受 取 地 代 家 賃                  | 4,140     |            |
| 受 取 保 険 金                    | 190       |            |
| 受 取 出 向 料                    | 6,939     |            |
| 雑 収 入                        | 1,878     | 19,013     |
| 営 業 外 費 用                    |           |            |
| 支 払 利 息                      | 2,877     |            |
| 債 権 売 却 損                    | 12        |            |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額              | 76,233    |            |
| 雑 損 失                        | 3,353     | 82,476     |
| 経 常 利 益                      |           | 2,537,742  |
| 特 別 損 失                      |           |            |
| 固 定 資 産 除 却 損                | 20        | 20         |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益        |           | 2,537,722  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税        | 1,066,139 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額                | △41,309   | 1,024,829  |
| 当 期 純 利 益                    |           | 1,512,892  |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 |           | 37,229     |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 |           | 1,475,663  |

※単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成28年9月1日から  
平成29年8月31日まで)

(単位：千円)

|                               | 株 主 資 本 |           |           |      |            |
|-------------------------------|---------|-----------|-----------|------|------------|
|                               | 資本金     | 資本<br>剰余金 | 利益<br>剰余金 | 自己株式 | 株主資本<br>合計 |
| 平成28年9月1日残高                   | 737,815 | 609,788   | 6,718,635 | △164 | 8,066,075  |
| 連結会計年度中の変動額                   |         |           |           |      |            |
| 剰余金の配当                        |         |           | △241,642  |      | △241,642   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益               |         |           | 1,475,663 |      | 1,475,663  |
| 株主資本以外の項目の連結<br>会計年度中の変動額(純額) |         |           |           |      |            |
| 連結会計年度中の変動額合計                 | —       | —         | 1,234,021 | —    | 1,234,021  |
| 平成29年8月31日残高                  | 737,815 | 609,788   | 7,952,657 | △164 | 9,300,097  |

|                               | その他の包括利益累計額      |              |                   | 非支配<br>株主持分 | 純資産合計      |
|-------------------------------|------------------|--------------|-------------------|-------------|------------|
|                               | その他有価証券<br>評価差額金 | 為替換算調整<br>勘定 | その他の包括<br>利益累計額合計 |             |            |
| 平成28年9月1日残高                   | 367              | —            | 367               | 22,134      | 8,088,577  |
| 連結会計年度中の変動額                   |                  |              |                   |             |            |
| 剰余金の配当                        |                  |              |                   |             | △241,642   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益               |                  |              |                   |             | 1,475,663  |
| 株主資本以外の項目の連結<br>会計年度中の変動額(純額) | 3,369            | 442          | 3,811             | 975,269     | 979,081    |
| 連結会計年度中の変動額合計                 | 3,369            | 442          | 3,811             | 975,269     | 2,213,102  |
| 平成29年8月31日残高                  | 3,736            | 442          | 4,179             | 997,404     | 10,301,680 |

※単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

## 連結注記表

### (1) 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### 1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

主要な連結子会社名

株式会社ティーシーエイ  
株式会社WS Sスタッフィング  
株式会社ジャッツ  
株式会社ビービーエフ  
株式会社ブランチ・アウト  
上海布藍綺国際貿易有限公司

なお、前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社ボイスエンタープライズは、平成28年9月1日に当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除いております。

また、株式会社ビービーエフおよび株式会社ビービーエフの100%子会社である株式会社ブランチ・アウト並びに上海布藍綺国際貿易有限公司は、平成29年6月30日に株式会社ビービーエフの発行済株式の60%を取得したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

主要な非連結子会社

人可夢商務諮詢（上海）有限公司  
株式会社ジャパンリムジンサービス

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

#### 2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社又は関連会社の数

該当する会社はありません。

持分法を適用していない非連結子会社又は関連会社の名称等

(非連結子会社)

人可夢商務諮詢（上海）有限公司  
株式会社ジャパンリムジンサービス

持分法を適用していない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、いずれも当期純損益及び利益剰余金等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

### 3 会計方針に関する事項

#### 資産の評価基準及び評価方法

##### 有価証券の評価基準及び評価方法

###### 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

###### その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 棚卸資産の評価基準及び評価方法

##### 商品

E・C・T支援助事業は個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。また、ホールセール事業は先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

##### 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

#### 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

主に定率法を採用しておりますが、一部の連結子会社は定額法によっております。

ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については定額法によっております。

また、取得原価が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

|           |        |
|-----------|--------|
| 建物        | 3年～39年 |
| 機械装置及び運搬具 | 7年     |
| 工具、器具及び備品 | 3年～15年 |

##### ②無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

|             |            |
|-------------|------------|
| 自社利用のソフトウェア | 5年(利用可能期間) |
|-------------|------------|

### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっております。

### 重要な引当金の計上基準

#### ①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### ②賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、翌連結会計年度の賞与支給見込額のうち、当連結会計年度に対応する金額を計上しております。

#### ③役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### ④役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

### 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

### 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。在外子会社の資産、負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

### のれんの償却方法及び期間

のれんの償却については、その投資効果の発現する期間を合理的に見積もり、その見積もり期間に応じて均等償却しております。

### その他連結計算書類の作成のための重要な事項

#### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## (2) 表示方法の変更に関する注記

### (連結貸借対照表)

前連結会計年度において、流動資産の「その他」に含めていた「貸倒引当金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

なお、前連結会計年度の「貸倒引当金」は△660千円であります。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、営業外収益の「雑収入」に含めていた「受取配当金」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

なお、前連結会計年度の「受取配当金」は1,179千円であります。

### (3) 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 465,768千円

### (4) 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### 1 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び株式数

| 株式の種類 | 当連結会計年度<br>期首株式数 | 当連結会計年度<br>増加株式数 | 当連結会計年度<br>減少株式数 | 当連結会計年度末<br>株式数 |
|-------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 普通株式  | 17,900,000株      | —                | —                | 17,900,000株     |

#### 2 当連結会計年度の末日における自己株式の数

| 株式の種類 | 当連結会計年度<br>期首株式数 | 当連結会計年度<br>増加株式数 | 当連結会計年度<br>減少株式数 | 当連結会計年度末<br>株式数 |
|-------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 普通株式  | 584株             | —                | —                | 584株            |

### 3 配当に関する事項

#### ①配当金支払額

| 決議                    | 株式の種類 | 配当金の<br>総額(千円) | 配当の原資 | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日       |
|-----------------------|-------|----------------|-------|-----------------|------------|-------------|
| 平成28年11月29日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 125,295        | 利益剰余金 | 7.00            | 平成28年8月31日 | 平成28年11月30日 |
| 平成29年4月14日<br>取締役会    | 普通株式  | 116,346        | 利益剰余金 | 6.50            | 平成29年2月28日 | 平成29年5月12日  |

②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

次のとおり、決議を予定しております。

| 決議                    | 株式の種類 | 配当金の<br>総額(千円) | 配当の原資 | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日       |
|-----------------------|-------|----------------|-------|-----------------|------------|-------------|
| 平成29年11月29日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 116,346        | 利益剰余金 | 6.50            | 平成29年8月31日 | 平成29年11月30日 |

## (5) 金融商品に関する注記

### 1 金融商品の状況に関する事項

#### 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については余裕資金を元に一定の範囲内で安全性の高い金融商品や換金性のある金融商品を対象に、投資環境等を勘案し慎重に判断しております。

資金調達については短期的な運転資金を銀行からの借入により調達しております。

#### 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、純投資目的のその他有価証券や、営業上の関係を有する企業の株式であり、市場価格による変動リスク、当該企業の財政状態の悪化などによる減損リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。借入金の使途は主として運転資金であり、金利の変動リスク及び資金調達に係る流動性リスクに晒されております。

#### 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、与信管理規程に基づき経理財務部及び営業部にて、営業取引前の与信調査、取引開始後の定期的モニタリングを実施することにより、取引の安全と債権の保全を図っております。

##### ② 市場リスクの管理

投資有価証券については、定期的到时価や発行体の財務状況等を把握し、また、取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

##### ③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、主として当社の経理財務部が適時に資金繰計画を作成・更新する方法により、流動性リスクを管理しております。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

平成29年8月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては含まれておりません。

|                       | 連結貸借対照表計上額   | 時 価          | 差 額   |
|-----------------------|--------------|--------------|-------|
| (1) 現金及び預金            | 5,521,609千円  | 5,521,609千円  | —     |
| (2) 受取手形及び売掛金         | 6,022,876千円  | 6,022,876千円  | —     |
| (3) 投資有価証券<br>その他有価証券 | 265,524千円    | 265,524千円    | —     |
| 資産計                   | 11,810,010千円 | 11,810,010千円 | —     |
| (4) 買掛金               | 2,529,510千円  | 2,529,510千円  | —     |
| (5) 未払金               | 1,919,878千円  | 1,919,878千円  | —     |
| (6) 未払法人税等            | 598,721千円    | 598,721千円    | —     |
| (7) 未払消費税等            | 325,785千円    | 325,785千円    | —     |
| (8) 長期借入金             | 2,450,000千円  | 2,450,372千円  | 372千円 |
| 負債計                   | 7,823,896千円  | 7,824,268千円  | 372千円 |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、取引金融機関から提示された価格によっております。

(4) 買掛金、(5) 未払金、(6) 未払法人税等、(7) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)

これらのうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社グループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分      | 連結貸借対照表計上額 |
|---------|------------|
| 非上場株式   | 261,422千円  |
| 関係会社出資金 | 5,357千円    |

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

関係会社出資金については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

(6) 1株当たり情報に関する注記

|   |            |      |     |
|---|------------|------|-----|
| 1 | 1株当たり純資産額  | 519円 | 81銭 |
| 2 | 1株当たり当期純利益 | 82円  | 44銭 |

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

|                            |             |
|----------------------------|-------------|
| 親会社株主に帰属する当期純利益            | 1,475,663千円 |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 1,475,663千円 |
| 期中平均株式数                    | 17,899,416株 |

(7) 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

# 貸借対照表

(平成29年8月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>    |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>6,513,190</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>2,680,430</b>  |
| 現金及び預金          | 3,372,767         | 1年内返済予定の長期借入金    | 200,004           |
| 売掛金             | 2,968,013         | 未払金              | 1,510,664         |
| 前払費用            | 46,935            | 未払費用             | 29,407            |
| 繰延税金資産          | 110,612           | 未払法人税等           | 521,000           |
| その他             | 27,897            | 未払消費税等           | 261,562           |
| 貸倒引当金           | △13,036           | 預り金              | 71,199            |
|                 |                   | 賞与引当金            | 78,496            |
| <b>固定資産</b>     | <b>7,553,593</b>  | その他              | 8,095             |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>1,856,501</b>  | <b>固定負債</b>      | <b>1,923,568</b>  |
| 建物              | 572,674           | 長期借入金            | 1,766,662         |
| 工具、器具及び備品       | 11,628            | 退職給付引当金          | 32,316            |
| 土地              | 1,272,197         | 役員退職慰労引当金        | 88,445            |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>24,753</b>     | 資産除去債務           | 22,913            |
| ソフトウェア          | 22,077            | その他              | 13,230            |
| その他             | 2,675             | <b>負債合計</b>      | <b>4,603,998</b>  |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>5,672,339</b>  | <b>(純資産の部)</b>   |                   |
| 投資有価証券          | 481,225           | <b>株主資本</b>      | <b>9,459,714</b>  |
| 関係会社株式          | 4,871,747         | 資本金              | 737,815           |
| 関係会社出資金         | 5,357             | 資本剰余金            | 609,788           |
| 関係会社長期貸付金       | 142,000           | 資本準備金            | 609,788           |
| 破産更生債権等         | 42,645            | <b>利益剰余金</b>     | <b>8,112,274</b>  |
| 敷金及び保証金         | 122,787           | 利益準備金            | 7,500             |
| 繰延税金資産          | 159,033           | その他利益剰余金         | 8,104,774         |
| その他             | 14,969            | 繰越利益剰余金          | 8,104,774         |
| 貸倒引当金           | △167,426          | <b>自己株式</b>      | <b>△164</b>       |
|                 |                   | <b>評価・換算差額等</b>  | <b>3,071</b>      |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金     | 3,071             |
| <b>資産合計</b>     | <b>14,066,784</b> | <b>純資産合計</b>     | <b>9,462,786</b>  |
|                 |                   | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>14,066,784</b> |

※単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

# 損 益 計 算 書

(平成28年9月1日から  
平成29年8月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                   | 金       | 額          |
|-----------------------|---------|------------|
| 売 上 高                 |         | 27,174,307 |
| 売 上 原 価               |         | 21,036,430 |
| 売 上 総 利 益             |         | 6,137,876  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |         | 3,580,836  |
| 営 業 利 益               |         | 2,557,040  |
| 営 業 外 収 益             |         |            |
| 受 取 利 息               | 1,111   |            |
| 有 価 証 券 利 息           | 2,542   |            |
| 受 取 地 代 家 賃           | 14,556  |            |
| 受 取 出 向 料             | 7,200   |            |
| 雑 収 入                 | 6,259   | 31,670     |
| 営 業 外 費 用             |         |            |
| 支 払 利 息               | 2,253   |            |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額       | 76,233  |            |
| 雑 損 失                 | 2,292   | 80,779     |
| 経 常 利 益               |         | 2,507,931  |
| 特 別 利 益               |         |            |
| 抱 合 せ 株 式 消 滅 差 益     | 52,263  | 52,263     |
| 特 別 損 失               |         |            |
| 固 定 資 産 除 却 損         | 20      | 20         |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |         | 2,560,174  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 989,556 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額         | △34,070 | 955,485    |
| 当 期 純 利 益             |         | 1,604,689  |

※単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

## 株主資本等変動計算書

(平成28年9月1日から  
平成29年8月31日まで)

(単位：千円)

|                             | 株 主 資 本 |           |             |           |                             |             |      | 自己株式      | 株主資本<br>合計 |
|-----------------------------|---------|-----------|-------------|-----------|-----------------------------|-------------|------|-----------|------------|
|                             | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |             | 利 益 剰 余 金 |                             |             |      |           |            |
|                             |         | 資本準備金     | 資本剰余金<br>合計 | 利益準備金     | その他利益<br>剰余金<br>繰越利益<br>剰余金 | 利益剰余金<br>合計 |      |           |            |
| 平成28年9月1日残高                 | 737,815 | 609,788   | 609,788     | 7,500     | 6,741,727                   | 6,749,227   | △164 | 8,096,667 |            |
| 事業年度中の変動額                   |         |           |             |           |                             |             |      |           |            |
| 剰余金の配当                      |         |           |             |           | △241,642                    | △241,642    |      | △241,642  |            |
| 当期純利益                       |         |           |             |           | 1,604,689                   | 1,604,689   |      | 1,604,689 |            |
| 株主資本以外の項目の<br>事業年度中の変動額(純額) |         |           |             |           |                             |             |      |           |            |
| 事業年度中の変動額合計                 | —       | —         | —           | —         | 1,363,047                   | 1,363,047   | —    | 1,363,047 |            |
| 平成29年8月31日残高                | 737,815 | 609,788   | 609,788     | 7,500     | 8,104,774                   | 8,112,274   | △164 | 9,459,714 |            |

|                             | 評価・換算差額等             |                    | 純資産合計     |
|-----------------------------|----------------------|--------------------|-----------|
|                             | その他<br>有価証券<br>評価差額金 | 評価・<br>換算差額<br>等合計 |           |
| 平成28年9月1日残高                 | 367                  | 367                | 8,097,034 |
| 事業年度中の変動額                   |                      |                    |           |
| 剰余金の配当                      |                      |                    | △241,642  |
| 当期純利益                       |                      |                    | 1,604,689 |
| 株主資本以外の項目の<br>事業年度中の変動額(純額) | 2,704                | 2,704              | 2,704     |
| 事業年度中の変動額合計                 | 2,704                | 2,704              | 1,365,751 |
| 平成29年8月31日残高                | 3,071                | 3,071              | 9,462,786 |

※単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

## 個別注記表

### (1) 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ①子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ②その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 2 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については定額法によっております。

また、取得原価が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

|           |        |
|-----------|--------|
| 建物        | 3年～32年 |
| 工具、器具及び備品 | 3年～15年 |

##### ②無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

|             |            |
|-------------|------------|
| 自社利用のソフトウェア | 5年(利用可能期間) |
|-------------|------------|

#### 3 引当金の計上基準

##### ①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ②賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、翌事業年度の賞与支給見込額のうち、当事業年度に対応する金額を計上しております。

##### ③役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。なお、当事業年度末において役員賞与引当金の残高はありません。

#### ④退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### ⑤役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

#### 4 その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

### (2) 表示方法の変更に関する注記

#### (貸借対照表)

前事業年度において、流動資産の「その他」に含めていた「貸倒引当金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

なお、前事業年度の「貸倒引当金」は△164千円であります。

### (3) 貸借対照表に関する注記

1 有形固定資産の減価償却累計額 333,315千円

#### 2 関係会社に対する金銭債権・債務

関係会社に対する短期金銭債権 11,175千円

関係会社に対する短期金銭債務 8,718千円

### (4) 損益計算書に関する注記

#### 関係会社との取引高

営業取引 115,476千円

営業取引以外の取引 21,435千円

### (5) 株主資本等変動計算書に関する注記

#### 当事業年度の末日における自己株式の数

| 株式の種類   | 当 事 業 年 度<br>期 首 株 式 数 | 当 事 業 年 度<br>増 加 株 式 数 | 当 事 業 年 度<br>当 減 少 株 式 数 | 当 事 業 年 度 末<br>株 式 数 |
|---------|------------------------|------------------------|--------------------------|----------------------|
| 普 通 株 式 | 584株                   | —                      | —                        | 584株                 |

(6) 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 繰延税金資産          |           |
| 賞与引当金           | 24,216千円  |
| 未払社会保険料         | 3,996千円   |
| 未払事業税           | 37,270千円  |
| 未払事業所税          | 11,018千円  |
| 未払賞与            | 2,899千円   |
| 前払費用            | 26,654千円  |
| 退職給付引当金         | 9,896千円   |
| 役員退職慰労引当金       | 27,085千円  |
| 減価償却超過額         | 11,012千円  |
| 資産除去債務          | 7,017千円   |
| 関係会社出資金評価損失     | 13,671千円  |
| 関係会社株式評価損失      | 39,957千円  |
| 投資有価証券評価損失      | 1,928千円   |
| 貸倒引当金           | 51,272千円  |
| その他             | 6,222千円   |
| 繰延税金資産合計        | 274,119千円 |
| 繰延税金負債          |           |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | △3,117千円  |
| その他有価証券評価差額金    | △1,356千円  |
| 繰延税金負債合計        | △4,473千円  |
| 繰延税金資産の純額       | 269,645千円 |

(7) 関連当事者との取引に関する注記

子会社

| 種類  | 会社等の名称             | 住所         | 資本金又は出資金(百万円) | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係             | 取引の内容        | 取引金額(千円) | 科目            | 期末残高(千円) |
|-----|--------------------|------------|---------------|-----------|----------------|-----------------------|--------------|----------|---------------|----------|
| 子会社 | 株式会社イーエー           | 大阪府大阪市北区   | 100           | 添乗員派遣事業   | (所有)直接100.0%   | 出資<br>役員の兼任           | 建物の賃貸(注2)    | 10,416   | その他の流動資産      | 937      |
| 子会社 | 株式会社WSフッキング        | 愛知県名古屋市中村区 | 40            | 人材派遣事業    | (所有)直接100.0%   | 出資<br>役員の兼任<br>出向者の派遣 | 出向者給与の受取(注3) | 7,200    | その他の流動資産      | 600      |
| 子会社 | 株式会社ヤリンビパンミュージアムサス | 北海道網走郡大空町  | 35            | 旅客運送事業    | (所有)間接100.0%   | 資金の援助<br>役員の兼任        | 資金の貸付(注4)    | 60,000   | 関係会社長期貸付金(注5) | 142,000  |
|     |                    |            |               |           |                |                       | 利息の受取(注4)    | 1,060    | —             | —        |

- (注) 1. 上記取引のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。期末残高には消費税等を含めております。
2. 建物の賃貸条件については、近隣の取引実勢に基づいて、賃借料金額を決定しております。
3. 出向者に対する給与の受取は契約をもとに決定しております。
4. 資金の貸付条件については、市場金利を勘案した利率を合理的に決定しております。
5. 株式会社ジャパンリムジンサービスへの関係会社長期貸付金に対して、124,781千円の貸倒引当金を計上し、当事業年度において、76,223千円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

(8) 1株当たり情報に関する注記

|   |            |      |     |
|---|------------|------|-----|
| 1 | 1株当たり純資産額  | 528円 | 66銭 |
| 2 | 1株当たり当期純利益 | 89円  | 65銭 |

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

|              |             |
|--------------|-------------|
| 当期純利益        | 1,604,689千円 |
| 普通株式に係る当期純利益 | 1,604,689千円 |
| 期中平均株式数      | 17,899,416株 |

(9) 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成29年10月20日

株式会社ヒト・コミュニケーションズ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

|                    |       |         |
|--------------------|-------|---------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 上林三子雄 ㊞ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 山村竜平 ㊞  |

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ヒト・コミュニケーションズの平成28年9月1日から平成29年8月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ヒト・コミュニケーションズ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成29年10月20日

株式会社ヒト・コミュニケーションズ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

|                    |       |         |
|--------------------|-------|---------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 上林三子雄 ㊞ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 山村竜平 ㊞  |

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ヒト・コミュニケーションズの平成28年9月1日から平成29年8月31日までの第21期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成28年9月1日から平成29年8月31日までの第21期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員的一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、当期の監査方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準に準拠し、当期の監査方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役、内部監査室及びその他の使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な支社・支店等において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と情報の交換を図り、遠隔地等で且つ従来 of 事業とは異なる法規制を受ける事業所の現状も調査するなど、必要に応じて事業の報告を受けました。

② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役、内部監査室及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及び会計監査人から、当該内部統制の評価及び状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め指摘すべき事項は認められません。

なお、財務報告に係る内部統制については、本監査報告書の作成時点において開示すべき重要な不備はない旨の報告を取締役等及び会計監査人新日本有限責任監査法人から受けております。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成29年10月23日

株式会社ヒト・コミュニケーションズ 監査役会

常 勤 監 査 役 立 石 和 義 ㊟  
(社外監査役)

社 外 監 査 役 松 田 孝 子 ㊟

社 外 監 査 役 中 島 公 男 ㊟

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、安定配当の維持を基本としながら、今後の事業展開等を勘案して、以下のとおり第21期の期末配当をいたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金6.5円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は116,346,204円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成29年11月30日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 提案の理由

株式会社ビービーエフの連結子会社化に伴う今後の事業展開に備えるため、定款第2条（目的）を変更するものであります。

### 2. 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

（下線は変更部分を示します。）

| 現 行 定 款                                                                                                                                                                                                                                        | 変 更 案                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（目的）<br/>           第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。<br/>           （1）～（29）（条文省略）<br/>                     （新 設）<br/>                     （新 設）<br/>                     （新 設）<br/>                     （新 設）<br/> <u>（30）</u> 前各号に付帯関連する一切の業務</p> | <p>（目的）<br/>           第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。<br/>           （1）～（29）（現行通り）<br/> <u>（30）インターネット・デジタル放送等による通信販売事業</u><br/> <u>（31）インターネット等のネットワークを利用した通信販売及び電子商取引に関するシステムの企画、設計、開発、運用及びこれらのコンサルティング業務並びに賃貸業</u><br/> <u>（32）商品等の保管、管理、発送、配送事業及び業務受託</u><br/> <u>（33）古物の売買及び委託販売</u><br/> <u>（34）</u> 前各号に付帯関連する一切の業務</p> |

### 第3号議案 取締役6名選任の件

取締役全員（6名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、計6名（うち新任1名）の取締役の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)         | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 所有する当社の株式数 |
|-------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | 安井豊明<br>(昭和40年8月3日生) | 昭和63年4月 株式会社富士銀行（現株式会社みずほフィナンシャルグループ）入行<br>平成13年5月 株式会社ビックカメラ入社<br>平成16年9月 当社代表取締役社長（現任）<br>平成26年10月 株式会社ジャッツ取締役（現任）<br>平成29年6月 株式会社ビービーエフ代表取締役会長（現任）                                                                                                                                                                                                                 | 204,100株   |
| 2     | 積真義<br>(昭和48年7月17日生) | 平成8年8月 株式会社エム・ディ・アイ（現株式会社レオパレス21）入社<br>平成11年5月 株式会社ミニミニ入社<br>平成14年11月 当社入社<br>平成18年4月 当社通信営業部長<br>平成20年6月 当社執行役員通信営業部長<br>平成20年7月 当社執行役員東日本事業本部長兼通信事業部長<br>平成20年11月 当社取締役東日本事業本部長兼固定通信営業部長<br>平成20年12月 当社取締役東日本事業本部長<br>平成22年9月 当社取締役東日本営業本部長<br>平成25年8月 当社取締役東日本営業本部長兼固定通信営業部長<br>平成26年4月 当社取締役東日本営業本部長<br>平成28年4月 当社取締役本社営業本部長兼東日本営業本部長<br>平成29年9月 当社取締役本社営業本部長（現任） | 5,700株     |

| 候補者<br>番号 | 氏<br>名<br>(生年月日)                             | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 所有する当社<br>の株式数 |
|-----------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 3         | よし つな とし あき<br>吉 綱 利 明<br>(昭和49年6月11日生)      | 平成5年4月 中谷興運株式会社 入社<br>平成18年4月 当社入社<br>平成21年1月 当社名古屋支店長<br>平成23年9月 当社東海支社長<br>平成25年8月 当社執行役員西日本営業本部長 兼<br>東海支社長<br>平成26年1月 当社執行役員西日本営業本部長 兼<br>関西支社長 兼東海支社長<br>平成26年8月 株式会社WSSスタッフィング 代<br>表取締役社長<br>平成26年11月 当社取締役西日本営業本部長 兼関<br>西支社長 兼東海支社長<br>平成27年8月 当社取締役西日本営業本部長 兼関<br>西支社長<br>平成28年2月 株式会社WSSスタッフィング 取<br>締役 (現任)<br>平成29年4月 当社取締役西日本営業本部長 兼関<br>西支社長 兼京都支店長 (現任) | 1,500株         |
| 4         | ※<br>ふく ほら なお みち<br>福 原 直 通<br>(昭和39年6月23日生) | 昭和63年4月 株式会社富士銀行 (現株式会社みず<br>ほフィナンシャルグループ) 入行<br>平成29年10月 当社出向 執行役員経理財務本部長<br>兼業務部長 (現任)                                                                                                                                                                                                                                                                                | 一株             |
| 5         | こ が てつ お<br>古 賀 哲 夫<br>(昭和23年3月2日生)          | 昭和46年4月 日本電信電話公社 (現日本電信電話<br>株式会社) 入社<br>平成17年6月 東日本電信電話株式会社 代表取締<br>役副社長<br>平成21年6月 エヌ・ティ・ティラーニングシステ<br>ムズ株式会社 代表取締役社長<br>平成25年6月 同社相談役<br>平成25年8月 当社顧問<br>平成25年11月 当社取締役 (現任)<br>平成26年10月 株式会社ジャッツ取締役 (現任)                                                                                                                                                            | 一株             |
| 6         | なか の まさ ゆき<br>中 野 雅 之<br>(昭和29年10月6日生)       | 昭和54年4月 労働省 (現厚生労働省) 入省<br>平成13年1月 厚生労働省労働基準監督課長<br>平成19年8月 財務省大臣官房審議官<br>平成21年8月 厚生労働省政策統括官 (労働担当)<br>平成24年9月 同省労働基準局長<br>平成26年7月 同省退職<br>平成28年11月 当社取締役 (現任)                                                                                                                                                                                                          | 一株             |

- (注) 1. ※印は、新任の取締役候補者であります。  
 2. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。  
 3. 古賀哲夫氏、中野雅之氏は、社外取締役候補者であります。  
 4. 古賀哲夫氏は、経営者としての豊富な経験を生かし、その経歴を通じて培われた幅広い見識を当社の経営の監督に生かしていただくため、社外取締役候補者としたものであります。  
 5. 中野雅之氏は、過去に会社の経営に関与したことはありませんが、労働省（現厚生労働省）において労働行政に長期にわたり関わってきた経験を生かし、当社の労働問題や派遣法等関連法令に関する助言、指導につき社外取締役としての役割を果たすことが期待されるため、社外取締役候補者としたものであります。  
 6. 古賀哲夫氏の社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。  
 7. 中野雅之氏の社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって1年となります。  
 8. 古賀哲夫氏は、特定関係事業者（子会社）である株式会社ジャッツの取締役であります。  
 9. 中野雅之氏は、当社の特定関係事業者の業務執行者若しくは役員ではなく、また過去5年間に当社の特定関係事業者の業務執行者若しくは役員であったこともありません。

#### 第4号議案 補欠監査役1名選任の件

監査役が法令に定める員数を欠くことになる場合に備え、予め補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、その選任の効力は就任前に限り、監査役会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

| 氏名<br>(生年月日)                      | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                       | 所有する当社の株式数 |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| わたなべとおる<br>渡邊 徹<br>(昭和28年11月25日生) | 昭和47年4月 株式会社日本旅行入社<br>平成3年4月 同社赤坂海外旅行支店業務課長<br>平成13年4月 同社東日本営業本部業務部経理課長<br>平成21年4月 株式会社日旅ビジネスクリエイト審査精算二部部長<br>平成22年1月 株式会社ジャッツ企画管理部長<br>平成24年3月 同社取締役企画管理部長（現任） | 一株         |

(注) 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。

#### 第5号議案 退任取締役に對し退職慰労金贈呈の件

取締役安川徳昭氏は、本総会終結の時をもって任期満了により退任されますので、在任中の功労に報いるため、当社における一定の基準に従い、相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することといたしたく存じます。

なお、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は、取締役会にご一任願いたいと存じます。

退任取締役の略歴は、次のとおりであります。

| 氏名                | 略歴                  |
|-------------------|---------------------|
| やすかわのりあき<br>安川 徳昭 | 平成19年11月 当社 取締役（現任） |

以上



# 会場ご案内

リーガロイヤルホテル東京（3階「ロイヤルホール」）

東京都新宿区戸塚町一丁目104番19号

電話 03(5285)1121（代）

〈JR・西武・東西線 高田馬場駅からのご案内〉

〈東西線 早稲田駅からのご案内〉



## ■シャトルバス

高田馬場駅発 9時10分、9時40分

※8時55分、9時25分に臨時のシャトルバスを運行予定です。

ホテル正面玄関発 毎時0分、30分

## ■徒歩の場合

地下鉄（東京メトロ）東西線早稲田駅3a出口左折7分

地下鉄（東京メトロ）有楽町線江戸川橋駅1b出口左折10分

都電荒川線早稲田駅より3分

## ■都バスの場合

高田馬場駅 ④・⑤のりば九段下行き（飯64）→早稲田下車

④・⑤のりば上野公園行き（上69）→早稲田下車

②のりば早大正門行き（学02）→早大田下車

新宿駅 西口ロータリー（2）のりば早稲田行き（早77）→早稲田下車

第21回定時株主総会におきましては、おみやげの配布は予定しておりません。  
何卒ご理解の程宜しくお願い申し上げます。